

品川支部

平成29年5月1日発行
〒141-0022
品川区東五反田1-8-5
TEL 3442-7075

5月

天理教品川支部（豊英分教会内） 発行責任者 栗原薫 編集 支部編集部

第十回「東京わかぎ塾」 （中学生練成会）

恒例になりました第十回目「東京わかぎ塾」が五月十三日、十四日 東京教務支庁で開催されます。

今年は特に「次代を担う若年層の育成」を命題に教区各部各会が中学生が参加するこの会に力を集めて行うとの事です。

毎年、実際に参加された中学生は、楽しく友達づくりも出来、誘い合わせて次の年にも参加されている方が多いようです。

興味のある方 お問い合わせはお近くの教会か、教務支庁(03) 3917-0247迄 五月四日まで申し込みが出来ます。



pixta.jp - 14783837

** 中学生が移っている写真が掲載できませんので鯉のぼりのイラストです

☆支部行事のお知らせ

・支部幹事会

五月九日(火)午後六時〜都南にて

・教区ひのきしん(五月五日(金))

当番は都南組です宜しくお願いします

・神名流し

五月一日(月)午前十時〜

場所 大井西口ロータリー

・在宅センターひのきしん

五月二十九日(月)午前十時〜

・支部例会

五月は水豊田です(詳細は二頁参照)

☆教務支庁からのお知らせ

・基礎講座 今月は二回開催

五月七日(日)午後一時半から

・東京わかぎ塾

五月十三日十四時半集合、十四日十七時迄

講話 本部准員 三日講習課課長

学生担当委員会委員

飯降 信先生

教区創立記念祭開催

染井吉野の桜満開の四月四日 教務支庁で明治四十三年から数えて百七年目の創立記念祭が執り行われました。

品川支部からも大勢の方が参加頂きました、式典の後には本部員、高安大教会長松村義司先生の講話を頂き、二部ではコーラス、又今年カーネギーホールでの公演を控えた雅楽舞楽等が披露されました。庭では各支部、婦人会等味自慢の模擬店で楽しみました。



婦人会だより

五月二十一日(日)は日本橋大教会の婦人会総会が十時から行われます。記念講演は婦人会本部委員中村恒子先生です。どなたでも拝聴できるそうです

品川支部 焼きそばは一番に売り切れ

| 拠点教会 | 7日14日号合併 7日の配布は有りません | 21日号 | 28日号 |
|------|-------------------------|------|------|
| 日本橋 | 手配り | 手配り | 手配り |
| 本 荏 | 手配り | 手配り | 手配り |
| 都 南 | 手配り | 手配り | 手配り |
| 三ツ木 | 直送 | 手配り | 直送 |
| 水豊田 | 手配り | 手配り | 手配り |

時報手配り五月予定

品川支部例会

平成29年5月30日 (火) 11時開始

場所 水豊田分教会

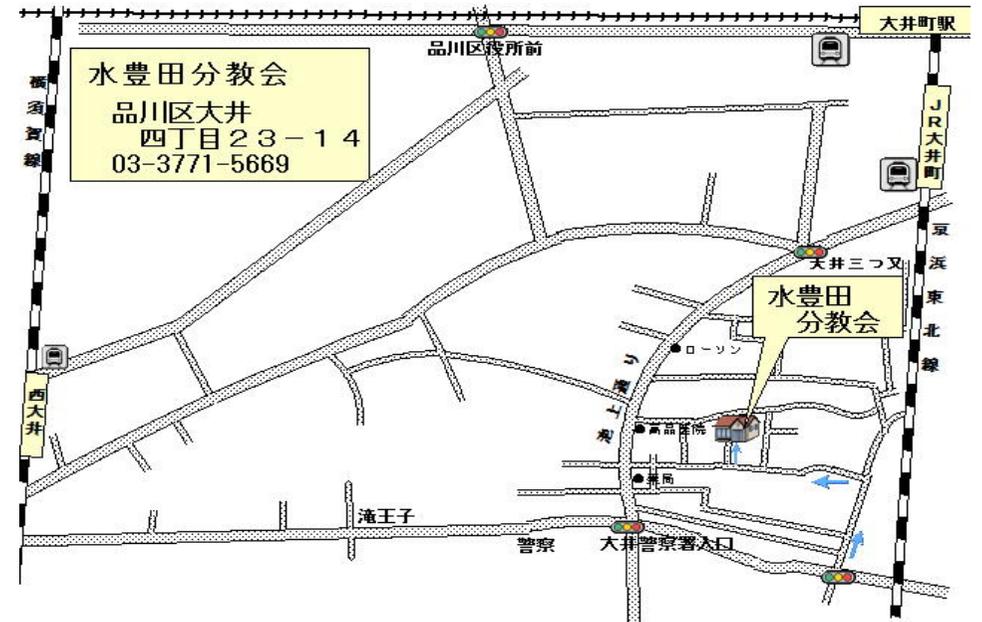
(品川区大井四丁目23-14)

内容 座りづとめ よろづよ八首 五下目

東京教区、支部連絡事項 当該石田教会長挨拶

昼食の用意頂いてます

*各教会の方のほかどなたでも (白足袋ハッピー着用)



教会紹介

都南分教会元一日



都南分教会の名称の語源は、東京「都」の「南」に位置しているので、「都南」と思われがちであります。大教会の部内第一号教会が品川宿の「南」馬場に出来たので「都南」という名称をいただいたのであります。

都の初代小西政吉先生は、信仰の初め、身上をおたすけいたたき、当時東本の中川よし先生の熱烈な信仰信念に感化され、明治三十三年、日本橋蛸殻町に都出張所の認可を受け布教を続けられていました。明治三十九年の春頃、政吉先生は日本橋蛸殻町を出て足を南に向け、品川方面を目指して布教に出発したのであります。二里の道ををいがけしながら品川に着いたのは夕闇が迫る頃でありました。

南馬場を抜け二日五日市村(現都南の場所)に着き牧場の藁の中で一夜を過ごされませ。翌朝、目が覚め牧場の牛の飲み水桶を分けてもらい洗面しておりましたら、「苦しい、たすけてくれ」という呻き声が遠くから聞こえます。駆け付けるとみると道端に男が倒れている。蒼白い顔に脂汗を浮かべ苦しんでいる男に早々おさづけを取り次ぎ、ハッタイ粉の御供を飲ませようとしますが、水がないと飲みにくからうと、辺りを見渡したところ、目の前に唐物屋(今の洋品店)がある。早朝であつたが店を開けてもらい主人に頼み、湯呑に水を貰い、男に飲ませたところ、たちどころに良くなり、その男は礼を言ってお立ち去ってしまいました。しかし、その一部始終を見ていた唐物屋の主人が「あなたは医者さんですか?今飲ませた薬であの方がすっかり元気になられた」と驚いた。「いやいや、私は天理教の布教師であります」と、

にをいを掛けられたのであります。そしてその後、その唐物屋の主人と親族が信仰を始められたのが、信者第一号となり(現都南)品川集談所

の前身)その家作を借りて都の「品川集談所」の看板を掲げ、この土地に種が蒔かれたのであります。しかし、小西政吉先生は日本橋に当時都出張所長という任務が有るため品川集談所には常駐することが出来ず、お子さんや、布教師を派遣しては、この道を繋いでおられました。

そんな頃、名古屋から出てきた千田兼次郎(後の都南初代会長)が、日本橋蛸殻町の近く京橋三十間掘でこの道を聞き分け、都出張所に通いだし、後に「品川集談所」に入込み、にをいがけおたすけに邁進するのであります。

そして、その後明治四十一年「都南布教所」が開設される事となります。

この地に一粒の種が蒔かれて以来、都南分教会は本年で創立百九年目を迎えます。その間、昭和十年に都南は高安大教会直属となり現在に至ります。「一言のにをいがけは人の命を救う」と聞かせていただきありがとうございます。この一粒種から何百人何千人もの人たちが救われている姿を見る時、これからのにをいがけおたすけに励ませていただくことを肝に銘じ邁進させていただきたいと思っております。

